

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 鳥獣もなき所にて一人食ひみたり。(宇治拾遺物語)

(訳) 鳥や獣もない所で一人食つ「」た。

- ①てしまつ ②てい ③て座つ ④て寝

1 「」

2 ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。(伊勢物語)

(訳) そのうえ一人っ子でもあったので、たいそう「」なさった。

- ①思い悩み ②気安くし ③かわいがり ④厳しくし

2 「」

3 いと悲しくおぼえけり。(大和物語)

(訳) たいそう悲しく「」た。

- ①思われ ②記憶し ③受け止め ④感じられ

3 「」

4 しのぶれど色に出でにけり我が恋はものや思ふと人の問ふまで(拾遺和歌集)

(訳) (恋心を人に知られまいと)「」のだが顔色に表れてしまった、私の恋は。もの思いをしているのかと人が尋ねるほどに。

- ①目を伏せる ②がまんする ③知らぬふりをする ④逃げ出す

4 「」

5 いみじくうれしきにも涙落ちぬ。(源氏物語)

(訳) 「」うれしいにつけても涙が落ちた。

- ①ますます ②それなりに ③とても ④少し

5 「」

6 明くるより暮るるまで、東の山ぎはをながめて過ぐす。(更級日記)

(訳) 夜が明けてから暮れるまで、東の山際を「」て過ぐす。

- ①思い出し ②想像し ③ぼんやり見 ④じっと見つめ

6 「」

7 女はこの男をと思ひつつ、親のあはずれども聞かでないむありける。(伊勢物語)

(訳) 女はこの男を(夫にしよう)と思ひ続け、親が(他の男と)「」けれども聞き入れないでいた。

- ①結婚させようとする ②見合いさせようとする ③会うようにし向ける ④話をさせようとする

7 「」

8 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。(竹取物語)

(訳) 三寸(約九センチメートル)ほどの人が、たいそう「」様子で座っている。

- ①上品な ②美しい ③滑稽な ④かわいらしい

8 「」

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 飽かず惜しと思はば、千年を過ぐすとも一夜の夢の心地こそせめ。(徒然草)

(訳) (いくら生きても)「」命が惜しいと思うなら、千年を過ぐしても一夜の夢のような短い気持ちがするだろう。

9 「」

10 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる(古今和歌集)

(訳) 秋がやって来たと、目にははっきり見えないけれど、風の音に(もう秋なのだ)自然と「」たことだ。

10 「」

11 この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見たてまつり給はむや。(源氏物語)

(訳) 世間で「」ていらっしやる光源氏を、このような機会に見申し上げなさったらどうか。

11 「」

12 海の中にはつかに山見ゆ。(竹取物語)

(訳) 海の中にわずかに山が「」。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P26～P35

- 1 「②」
- 2 「③」
- 3 「①」
- 4 「②」
- 5 「③」
- 6 「③」
- 7 「①」
- 8 「④」
- 9 「満ち足りず」
- 10 「気づい」
- 11 「評判になっ」
- 12 「見える」